

異なる世代の個性が“ブレンド”されて生まれる音宇宙 日本が誇るベーシスト、鈴木良雄の新バンド「The Blend」 による渾身のライブを収録したファースト作



鈴木良雄(b)

アルバムが収録された“ピットイン”のステージ。左からハクエイ・キム(p), 中村恵介(tp), 鈴木, 峰厚介(sax), 本田珠也(ds)

ガツン!と来た。久々に衝撃が走った。鈴木良雄の新バンド、「The Blend」のファースト・アルバム『ファイブ・ダンス』。異なる世代の個性が“ブレンド”されて生まれる渾身の力が注がれたライブである。鈴木は「もうこれはジャズなのにアメリカの音楽ではない日本の音宇宙。ようやくここまで辿り着いた」とコメントした。堂々たる日本のジャズ。伝説の『日野=菊地クインテット』に比肩する傑作と言いたい。あの感動を思い出した。メンバーはベテランの峰厚介、親子ほど年の離れたハクエイ・キム、中村恵介、本田珠也からなるクインテット。鈴木に各メンバーを語ってもらった。

「厚ちゃんの長い間に培われてきた豊富な経験が随所に現れています。彼は落ち着きと音楽の深さという点でメンバーに影響を与えていると思います。ハクエイの魅力は誰々風でもない個性的なミュージシャンであるということ、すごく柔軟性があることです。アイデアマンでもあり、いろいろな曲でアイデアをくれる。インでもアウトでも演奏出来て、バックを組み立てるのもうまい。

恵介のトランペットは無理のない力が抜

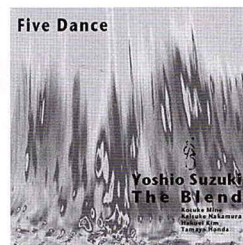
けた良い音をしている。すごく良い耳を持っていて、どんなコード進行でも和音でも軽々とこなしてしまいます。珠也との共演はこのバンドが初めてでした。今までいなかったスタイルのドラマーです。リズムを刻むだけではなく、カラーを付けたり、ダイナミクスを付けてどの曲も動的なものに変えてしまう魔術がある。それと常にプレイには緊張感があって、一刻たりとも気が抜けない。珠也がメンバーになったことで音楽の方向と幅が大きく変わり、インとアウトのどちらへも行けるバンドになりました」

バンドの音楽はすべて自然発生的に生まれた。レパートリーはハクエイの曲と〈Moanin'〉を除いて、鈴木が書き下ろした新曲だ。鈴木はこのバンドの音楽についてこう語っている。「僕が求めていたジャズの自由さやインプロヴァイズすることの面白さが出ていると思います。普通のインコードで始まり、途中でアウトなコード(フリー・ミュージックのような)になって、またインに戻ったりなんでもOK。珠也とハクエイが仕掛け人ですね。要するに決まりごとがなく自由であることが、このバンドの大切な要素です」

異世代の共演といえ、鈴木は若い頃、アメリカでアート・ブレイキー&ジャズ・メッセンジャーズで2年半演奏したのを始め、多くのビッグ・ネームと共演した。

「アメリカでは、何よりも大事なものはオリジナリティであることを学び、それは自分にとって何なんだろうとずいぶん考え苦しみ続けましたね。邦楽と西洋音楽は、ジャズのように本当の意味での融合を成し得ていないと思うんです。僕が求めているのは、もっと深いところですべてが融合した新しい音楽でクオリティが高いものです。それがどんな音なのかまだよくわからないけど、求め続けていきたいと思います」。

その飽くなき探究心には驚かされるが、The Blendの音楽は、日本のジャズが到達した、高く聳える一つの山頂であることは間違いないだろう。

『ファイブ・ダンス』
(FRIENDS MUSIC)